

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

旧年中は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

東日本大震災から3月で3年となります。東北から関東にかけて甚大な被害を受けた地域の復旧・復興は本格的になりつつあります。しかしその影響を受け建設従事者や資材が集中しつつあり、その影響もあり医療福祉建築の建設が滞り始めていることは残念です。さらに2020年のオリンピック開催都市が東京と決まり、今後その整備のためにさらに建設資本が集中化し建設費の高騰が予想されます。皆で東北や関東の復興、東京オリンピックを応援し日本を明るくしたいのですが、複雑な思いを持たれている方も多いと思います。

昨年の活動をご報告します。恒例の施設見学会は6月より5回開催し、多くの方が参加されました。「病院／福祉建築講座」、「医療福祉建築フォーラム」は例年のように会場をほぼ満員とする盛況でした。特に「医療福祉建築フォーラム」では専門医療を取り上げたり、東日本大震災に関連して仮設住宅を取り上げてシンポジウムを行いました。病院管理者向けの「病院建築講座～施設整備をお考えの方に～」は4年目ですが、残念ながら広報が行き届かず参加者は若干少なめでした。しかしこの講座の受講者を対象とした「会友制度」を今年度利用している法人は30施設になり、つながりが広がって入会にも結び付いています。また、JIHaユースクラブについては隔年開催なので今年度は休みのはずでしたが、関西の会員から大阪での開催要望が強く第5期として行っています。参加者12名で、世話人やコーディネーターも関西在住の方を中心に進め、関西でも次世代の協会活動を担う人たちが増加し始めています。東アジアの国際情勢は厳しい環境ですが、昨年10月末に東アジア医療福祉建築シンポジウムが「医療福祉建築のサステナブル」をテーマに、韓国ソウル市の隣接にある安山市の漢陽大学のゲストハウスに、韓国・日本・中国の医療福祉建築に携わる者たちが集いました。前日の日本独自の病院見学、当日の研究発表を下にした活発な討議、翌日の主催者側の見学会に、参加者16名にとっては充実した研修となりました。

調査研究事業では課題研究「地方公共団体による福祉施設等の独自の基準制定に関する研究」は法規委員会を中心に、国庫補助金研究「特別養護老人ホームにおける利用者のプライバシー確保の実態に関する調査研究事業」は山下理事を中心に進めています。

編集発行事業は「医療福祉建築」を例年通り発行しました。なお一昨年発行した合本の余部がまだありますので事務局にお申し出ください。顕彰事業は「医療福祉建築賞2013」の審査が井上委員長の下に進んでいます。応募数は昨年より増加しています。法規委員会が一昨年に編集した計画法規ハンドブックの全面改訂版「医療福祉施設 計画・設計のための法令ハンドブック」もまだ余部がありますのでご入用の方は事務局へお申し出ください。

情報収集発信事業としては、JIHaホームページの再整備に続き、Information from JIHAを本年から会員のご協力の下、メール配信に切り替えました。ご覧のことと思います。

昨年は海外医療福祉建築研修の年でありコーディネーターの山下理事以下25名が欧州で研修いたしました。

さて、本年は当協会設立60周年ですので、機関誌やフォーラムで少し関連テーマを取り上げる予定です。また今年は医療制度の改変が進むとされていますが、今後も新しい制度に対応した研究や研修を行い会員の皆様のご要望に応えていきたいと考えています。

最後に、本年も本協会の会員皆さまの一層のご活躍を祈念申し上げます。

2014年 元旦

一般社団法人 日本医療福祉建築協会
会長 河 口 豊

